

「鉄筋を知ってもらう」ことを主眼に実施する出前講座と建設技術展

イメージUP

入職促進

定着促進

人材育成

POINT

- ▶ 鉄筋工事の役割や重要性をアピールするための広報活動の一環として、出前講座の実施と建設技術展出展に取り組んでいる。
- ▶ 鉄筋を知ってもらう工夫として、目で見て理解し、触って感じてもらうことを重視。
- ▶ 出前講座は、目的や期待する効果について学校と協議したうえで実施。建設技術展は来場者や行事等に合わせて内容を決定している。



実際の組立に挑戦、「丁寧にやることの大切さがよく分かった」と感想を述べる学生たち

背景と動機

鉄筋工事については、高校生・大学生に限らず世間一般にほとんど理解されておらず、認知もされていない。今後、鉄筋業界が持続的に発展していくためには、まずは鉄筋工事について知ってもらうことが必要だと考えた。

概要と成果

近畿一円の工業高校や大学等に講師を派遣して実施する出前講座と、「建設技術展近畿」の出展を通じて、鉄筋工事の仕事とその重要性を知ってもらうことを目的としている。出前講座は平成22年から平成26年までに31校で開催、受講者数は1,822名に達する。建設技術展も平成21年から連続して参加している。

出前講座

イメージUP

入職促進

近畿一円の工業高校や大学、建設関連専門学校に講師を派遣。「基礎講座」、「ミニチュア作成」、「実物作成」を基本カリキュラムに、実施校の意向等に合わせて時間や内容を調整して実施している。

成果

- ・平成26年に「出前講座をきっかけとする入職者、4~5名を達成。」
- ・平成22年に3校174名から始まり、平成26年は11校682名へと、参加者・実施校ともに大幅に増大。
- ・既入職者が母校での開催に同行、後輩にかっこいい姿を披露する機会も生まれている。

建設技術展

イメージUP

入職促進

2日間で15,000人が集まるイベントで、「もっと知って！鉄筋工事のこと！」をテーマに実施。鋼材や加工機の展示のほか、職人の実演や誰でも参加できる結束体験コーナーを設けている。

成果

- ・来場者の投票で選ばれる「ベストブース賞」を初出展以来、連続受賞。わかりやすく、訴求力の高い展示が評価された。
- ・学校関係者や労働局とのパイプづくりに大きく役立った。
- ・合同出展する団体が推薦する製品が普及するきっかけとなった。

【苦勞・工夫した点】鉄筋工事が理解されていない原因は、構造物が完成すると見えなくなる。そのため、目で見て理解してもらうことを重視した展示方法を工夫、模型等を使って「見えなくなるからこそ大事」な鉄筋の役割を伝えている。

PROFILE

関西鉄筋工業協同組合

所在地／大阪府大阪市中央区島町 2-1-5
建団連会館内
TEL:06-6946-2137

会員数／正会員 64 社
賛助会員 15 社

URL／<http://kantetu.com/>



出前講座の実施体制

出前講座は、現場と同じ作業を体験することで、鉄筋の役割や仕事内容、ものづくりの面白さや職人の誇りなどを学ぶ。

【カリキュラム】「基礎講座」(1h)、「ミニチュア作成」、「実物作成」(2h)を基本とする。

【講師】組合員企業に所属する1級鉄筋技能士や登録鉄筋基幹技能者。

【教材】座学の「基礎講座」ではゼネコン作成のDVDを使用。実技はミニチュア鉄筋・実物大の鉄筋を使って技能検定モデルを組み立てる。

【時間】学校の意向や事情に合わせて時間と実施内容を調整。

現状の課題(現在、取組を実施する上で苦勞している課題)

進路が決まる前の中学生向けに出前講座を行うことが今後の課題である。中学校の関心は測量や設計分野に偏っているが、アプローチ方法を検討して興味を持たせる必要がある。